



宮司プレス 九十九号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十七年 一月二十一日

◇宮司の柴田です。

遅まきながら、平成二十七年の清々しき新年を寿ぎ、謹んで、お慶びを申し上げます。

社報「産土(うぶすな)第四十八号」では、新年の御挨拶を申し上げさせて頂きました。が、迅速(じんそく)な宮司プレスの発行という課題が克服されておりません。本来で

あるならば、新年号の本号が通巻第百四号のはずであります。悪しきルーティン(手順)が定着し、未だに五ヶ月遅れを取り戻せない状況であります。しかしながら、昨年十月からは、毎月一回の発行を継続しております。かろうじて、遅れ月の累積(るいせき)だけは避けられております。次号は、いよ

いよ待望の百号となりますけれども、「お待たせいたしました」が、常套句(じょうとうく)とく)となつてしまいました。言い訳を書き並べ、紙面を割(さ)きつつの九十九号の発行です。

◇今年も九百通あまりの年賀状をお出ししました。表の住所と御芳名については、文

の「筆ぐるめ」というソフトを大いに活用させて頂きました。しかし、裏面は、水莖(みずくき)の跡が、麗しくはありませんが、

墨書させて頂きました。全部で十一種類、自筆したものを、五十枚ないし六十枚程度、オフセットの印刷機、輪転機で印刷しました。

「神喜地喜人喜」「則神去私」「日清日新日進」「天長地久」「日々是好日」「四海生春風」「三感四恩」「明浄正直勤務進進」「神信心」「神道といふは人々日用の間にあり」「天恐地敬人愛」の十一種類です。今年に新たに、「天恐地敬人愛」を加えて、一番多く印刷しました。

◇本年の干支(えと)は、乙未(きのとみ)であります。全部で六十通りある干支の三十二番目にあたります。この干支にどのような意味があるのでしょうか。乙は、もともと、軋(きし)るという意味があり、草木の幼い芽が、いまだに自由に伸長せず、屈曲している状態を表しています。つまり、成長の途中で曲がっている状態です。未は、味(び、あじの意味)で、草木の果実が成熟して滋味(じみ)を生じた、

うまい味わいをだしているという意味があります。そして、「木」の年まわりの二年目なのです。木は木でも、昨年は、「大樹(たいじゆ)」、今年は、「低木(ていぼく)」であります。低木といえ、風雪に耐え忍びながらも、真つ直ぐに伸びきれず、曲がりくねって這(は)うように繁茂(はんも)するのです。正

月飾りに欠かせない「ウラジロ」や初夏にツツジに似た花をつける「シヤクナゲ」などが、低木です。厳しい状況の中でも、曲がってでも、這ってでも生き抜いて、それぞれの「うま味」をだしていくことが大切ではないでしょうか。今年の干支からよみとれるのです。

◇動物では、羊があてられています。「ねずみ」から始まって「いのしし」で終わる十二支(じゆうにし)の八番目です。日本人と羊の関わりの歴史は浅いので、古来、羊も竜と同じように想像上の動物と考えられていました。

しかしながら、西暦五九九年には、百濟(くだら)の国から、羊が、朝廷(ちやうてい)に献上されたそうです。また、平清盛は、後白河天皇様に、羊を差し上げています。さらに水戸の御老公の徳川光圀侯も、庭で飼っていたそうですし、平賀源内は、羊の飼育に挑戦し、失敗されています。私共、庶民に親しまれるようになったのは、明治二十七年ころからだそうです。羊の飼育が本格的に始まったそうです。

◇ところが、キリスト教の旧約聖書には、人間が食べる事が許されているのは、「羊の肉」と書かれています。イスラム教では、オスの羊を供える事が、最善とされ、中国の儀式では、牛と豚、そして、羊の肉が尊ばれました。宮中の晩餐会（ばんさんかい）では、羊の肉の料理が饗（きょう）されます。私どもの生活でも、羊毛が欠かせません。このように、羊には、柔軟性があり、柔らかく、そして、しなやかです。

◇さて、書初めをしました。「致祥」と「吉祥」であります。上は、「致祥（しようにいたる）」と読みます。「和気致祥（わきしようにいたる）」から引用しました。どんなに苦しくつらい時にも、和やかな気分のみちみちて、事にあたれば、必ず幸せになるという意味です。下は、「吉祥来福」から引用しました。



「辰巳の天井」「午尻下がり」といわれる景気の動向、未年はという「辛抱（しんぼう）」なのだそう。干支の羊にあやかり、しなやかに、耐え忍びつつ、「吉祥」を待ちたい

ものです。辛多かりし日々でありたいという願いを込めて浄書（じようしよ）しました。◇辛抱の「辛（しん）」は、「辛い」とも読みますが、辛い時にも和気あいあいと前向きに、一歩踏み出しますと、「辛」に「一」を加えると「幸」になります。本年が、皆様方にとりまして、吉祥来福で和気致祥でありますよう、お祈り申し上げます。

◇十二月の祭典行事報告

▼月次祭 \*十一月一日、十五日

▼海士郷恵比須神社祈漁祭 \*十一月三日

▼福浦金刀比羅宮注連縄おろし \*十一月十五日

▼天長祭 \*十一月二十三日

▼田の首八幡宮注連縄おろし \*十二月二十三日



▼正月臨時巫女説明会 \*十二月二十三日

▼下関西ロータリークラブ奉納例会参拝

\*十二月二十四日

▼貴布禰神社正月飾り \*十二月二十八日

▼除夜祭、大祓式 \*十二月三十一日

◇十二月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会忘年会 \*十二月六日

◇維蘇志新年境内駐車場ライン引奉仕作業 \*十二月三十一日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇神社庁新嘗祭 \*十二月二日

◇下関支部幹事会 \*十二月二日

◇神職身分詮衡委員会、臨時役員会 \*十二月十九日

\*十二月十九日

▼西ロータリークラブ

◇例会 \*十二月三日、十日

◇夜間例会 \*十二月十七日

◇奉納例会 \*十二月二十四日

▼講演活動

◇琴崎八幡宮崇敬会 \*十二月三日



◇広旗八幡宮祖霊祭 \*十二月六日

◇宮尾八幡宮祖霊祭 \*十二月七日

◇下関市倫理法人会経営者モーニングセミナー \*十二月十日

◇ミナー \*十二月十日

▼迫町自治会関係

◇キャボットジャパン \*十二月五日

◇彦島製錬忘年会 \*十二月九日

◇下関三井化学忘年会 \*十二月十二日

▼教誨活動、美祿社会復帰促進センター

◇集合教誨男子 \*十二月二十二日